# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0290900018 | | |
| 法人名 | 株式会社　清里 | | |
| 事業所名 | グループホーム　清里 | | |
| 所在地 | 〒038-331青森県つがる市富萢町屏風山1番地1048 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年8月20日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 公益社団法人青森県老人福祉協会 |
| 所在地 | 〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階 |
| 訪問調査日 | 平成30年9月10日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者様・家族の要望を取り入れて、本人の好みに合わせた食事提供ができるよう努力している。また、季節に合わせた行事食を提供し、家族の方々に安心して頂いている。

・利用者様の尊厳保持のために、言葉使いや、安心して暮らせるように接客対応に努めている。

・昔の生活感に近づけるため、利用者様が畑作業をできる環境である。

・ご本人が、買い物・外出希望に対し、できる限り自由に対応できる体制である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

リビングの大きな窓からは湖が見え、天井が高く、開放的で明るい雰囲気の事業所である。理念を念頭に職員全員が、その人らしく過ごせるように意識し、個別ケアに取り組んでいる。また、理念の検討を全職員で繰り返し話し合い、現在もより良い方向へ向かうように努力を重ねている。住み慣れた地域で継続的に交流を図れるように、地域の行事へ参加したり、地域の方々が自由に遊びに来れる環境作りも出来ている。認知症対応型通所介護も併設し、地域の方との関係が自然に継続できている。職員、利用者からは笑顔があふれ、笑い声の絶えない事業所である。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>（参考項目：23,24,25） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>（参考項目：28） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 日々のケアの中で尊厳保持に努め、状況変化に応じた個別対応を実践している。 | 理念に基づき利用者の尊厳を保持し、その人らしく最後まで暮らしを支える体制が出来ている。現在、外部の講師を交えながら、職員全員で地域密着型サービスとしての理念等の見直しを行っており、より良いサービスの提供を目指している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 事業所のお祭りに、地域の方々を招待し、また、地域の踊り、近隣のGH、家族、職員と共に楽しめるよう、交流を図っている。地域のネプタも施設に入ってきていただいている。入居者様は、毎年楽しまれている。 | 事業所の行事に地域の住民や婦人部の方々が参加し、踊りを披露してくれたり、一緒にゲームや食事をして馴染みの関係作りが出来ており、町内のゴミ拾いにも参加している。また、近隣のグループホームとお互いの行事に参加し、交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | お祭りの際は、近隣・地域の方々、近隣のGHを招待し、利用者様と一緒にゲームに参加していただいたり、一緒に食事をとり、認知症の方々と触れ合う機会を設けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、現状報告をしている。そこで介護課・地域包括センター・町内会長・民生委員・家族からの意見・話し合いが行われており、サービスの質の向上を目指している。 | 2ヶ月に1回開催し毎回、市役所職員、地域包括支援センター、町会の方々の参加がある。各関係機関からの情報や家族からの要望を聞いたり、こちらから活動内容の報告をして意見交換が出来ている。助言や指導をいただきサービスの向上に努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に、介護課の方に参加して頂き、助言指導を仰いでいる。また、日頃から解らないことがあれば、助言・指導を受けている。 | 介護保険制度の改正時や運営についての疑問等は、運営推進会議で質問したり、直接窓口に相談に行き、助言や指導を受ける協力体制が出来ている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロに取り組んでいる。身体拘束11項目を掲示し、理解に努力しいている。職員が交代で外部研修に参加している。3ヶ月に一回委員会を開き、勉強会に繋いで全員で共有している。 | 外部研修には全職員が交代で参加している。研修内容は口頭で引き継ぎ時報告し、不在者には回覧し、全職員に周知できる体制を取っている。また、3ヶ月に1回研修委員会を開催し、勉強会を企画し、何回かに分けて実施することで、全職員が参加している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 日々のケアで困難に直面した時は、家族・医師に相談し、家族が納得いくケアに取り組んでいる。3ヶ月に1回委員会を開き、勉強会に反映させ、全員で共有している。職員がストレスを溜めないよう、問題が生じた時は全員で共有し、一人で抱え込まないケアに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員が交代で外部研修に参加し、勉強の機会を設けている。また、社内で勉強会を開いている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所契約時、理解できるよう説明し、納得できるよう理解を得ている。 | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様・家族には、日頃から報告し、要望等を聞くようにしています。また、運営推進会議にて報告させて頂き、色々な意見を聞き、それを反映させている。年一回施設でアンケート用紙を配りサービスの質の向上に努めている。 | 利用者の意見は、日常の会話の中からくみ取り対応している。また、家族へは毎月のお便りにコメントを添えたり、運営推進委員会へ報告し、年1回のアンケートを実施している。家族に合わせてメールや電話、郵送で対応し、要望等を頂いた際はケアに活かしている。外部の相談機関も入居時説明している。 | |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 朝礼等により、意見を述べている。その意見を、全員で共有し、同じ方向性に向かっている。課題が生じた時に会議を開き、改善策に努めている。 | 朝礼や午後のミーティング内で意見を聞き、全職員で改善に向けて話し合いを行っている。また、職員にアンケートも実施し、内容については会議で話し合いをして共有し、解決している。職員からの管理者の信頼感も高く、相談できる関係が出来ている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個々に働きやすい環境を整えている。就業規則に基づき、やりがいを持ち、向上心を持って働ける環境に努めている。また、誕生日・子供の学校行事への参加において、特別有給休暇を実践している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員が交代で外部研修を受ける機会を設けている。困難事例になった時、家族の意見・要望を聞きいれながら全員で取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修参加により、他事業所の職員間で、情報交換の機会に繋げている。<br>他GHとの交流を広げていきたいと考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 可能な限り、本人の要望に耳を傾け、本人の思いを受容し、安心した生活を送れるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の要望、思いに耳を傾け、入所までの経緯を受け止め、今後の支援に向かって、互いに話し合いができる環境に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人にとって、その時必要とされる支援を提供できている。また、介護保険以外のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、家族にはなれないが、24時間・365日、共に生活しているので、信頼関係の構築ができるよう、日々努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月お便りを送り、日々の生活をわかるようにしている。面会時・必要に応じて電話等で報告している。その時の状況に応じて、家族と相談しながら対応を決めたり、メールで家族との報告・連絡等を行い、本人への支援を行っている。 | | |
| 20 | （8） | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様の友人や、近隣の方々が気軽に遊びに来れる環境づくりに努力している。また、昔から馴染みのある物産館へ買い物に行くようにしている。 | 近隣の方々が自由に遊びに来たり、利用者の友人も面会に来ている。また、近隣の商店には頻繁に出掛け、利用者にあったサイズのソフトクリームを提供してくれている。店の方々との馴染みの関係が継続できている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ホールでゆっくりと、過ごせるようソファを置いている。好きな時会話ができる環境である。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了となっても、家族との電話のやりとりや、面会などで相談関係に努めている。再入所の方もある。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者様の希望、意向の把握に努め、本人の思いに添えることができるよう、職員間で共有し、家族に相談し、本人本位のもとに支援を行っている。 | 入居時やその都度、利用者や家族から意向を確認している。希望等が聞かれた際は、伝達ノートや口頭で全職員で情報を共有し、対応している。利用者から希望があった際は、その都度家族へ連絡をして確認し、利用者からの意向確認が難しい方は、ケアの変更時にも、家族へ確認し対応している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの生活歴の把握の努めている。それに近づけるよう畑を作り、土を触れる環境を整えている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員間で共有するために、連絡ノート・日誌等を活用し、朝礼で伝達を行い一人ひとりの現状把握に努めている。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービスの質の向上のために、職員間で課題を挙げてもらい、その都度家族へ報告し、意向を聞いたうえで、ケアカンファレンスに取り入れ、意見が反映された介護計画となっている。 | 変化があった際は、その都度見直しがされている。通常は6か月で見直しされ、各職員が付箋紙に現状についての気付きを記入し、それを基にケアを検討し、介護計画に反映している。また、家族がケアカンファレンスに参加出来ない方々には、電話や郵送などで意向や希望を聞き取り、プランに反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 一日の様子が、日誌・申し送り等により、また、朝礼の伝達・ミニ会議での情報を共有し、実践や介護計画に繋げている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の思いを尊重し、それに近づけるよう努力している。夏の暑い日は、畑作業の後は、毎日でも入浴体制に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 本人・家族の希望に添えるため、GHとして努力している。安全で安心して暮らせるよう、必要に応じて、医療の訪問看護を取り入れている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の思いから、昔からのかかりつけの病院受診ができるよう、個別対応をしている。 | 入居前のかかりつけ医を継続し、遠方であっても受診対応しており、利用者や家族の意向が反映されている。受診結果やお薬の変更等があれば、電話やメールで、家族の希望の方法で報告している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員と看護職員とで常に連携がとれる環境である。利用者様が適切な受診・看護をうけられるようその都度指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際は、家族のやりとりや、病院担当者との情報や相談に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方について、入所時に家族と話し合い、事業所でできることを説明している。その時の状況に応じてその都度家族と話し合い、方針を共有している。病院・訪問看護ステーション・家族と相談し全員で取り組むよう努力している。 | 入居時には重度化や終末期の説明を家族へ行っている。訪問看護と契約しており、医療連携の体制作りが出来ている。現在看取りの実施はないが、重度化となった際は、家族の意向を確認しながら、主治医を含め本人にとっての最善の支援を話し合い進めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者様の急変や事故に備えて、訪問看護ステーションへの連絡は、できている。また、年に一度、消防署より救急救命士の方に来て頂き、応急手当や初期対応の研修を受けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災・地震・水害の災害時に避難できるよう、地域の住民・消防隊員の協力を得て、避難訓練を実施している。 | 年2回の避難訓練、年1回は地震（水害）訓練を実施している。地域の町内会長や消防隊員の協力を得て、夜間想定の訓練も、連絡網を活用し全職員参加で行っている。山の上の展望台を避難場所として実践的に行っており、家族へも避難場所を周知している。備蓄食料も1週間分保管している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉がけ等は、日々徹底している。また、トイレ介助時は、エチケットタオルを用いている。おむつ交換時も同様である。 | 排泄時にはエチケットタオルを使用するなど尊厳保持に努めている。また、職員が声掛け等について互いに注意しあう関係が構築されており、人格の尊重やプライバシーの確保に日々全員で取り組み実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様と職員は、共に行動することが多く、一緒にお茶したり、畑作業をしたりと、その中でコミュニュケーションをとりながら、本人の思い、願いを聞けるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人本位のもとにおこなっている。食事も、その時の体調・希望に合わせ、出来る範囲で対応している。当社でできる範囲内では、努力している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髭剃り・整髪・身だしなみは徹底化している。季節・本人の希望に応じて支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 美味しく食事ができるよう、一人ひとり好みに合わせて提供している。日々の生活のなかで、可能な利用者様は、畑へ職員と一緒に行き、野菜を収穫し、一緒に調理を行っている。また、後片付けも一緒に行っている。 | 自家製の野菜を使用し、職員全員が利用者の嗜好を考慮しながら日々のメニューを考案している。また、個別に応じパン食やおにぎりを提供したり、行事食も行っている。利用者も参加し調理や後片付けを一緒に行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 家族から情報を聞き、また、本人希望により、好みに合わせて満足できる食事提供に努力している。水分量はチェック表にて全員が把握できるようになっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実行している。また、口腔ケア後お茶うがいも実践している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 歩行困難な方でも、日中はトイレ誘導を行っている。寝たきり防止のために、トイレでの排泄を実践している。 | 日中、全利用者がトイレでの排泄を行っている。歩行器に支えられながらもトイレ排泄を望む利用者や車椅子の利用者も、個別に職員が対応し、支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる | 水分の確保や、排便状況を記録に残し毎日チェックしている。また、毎日、ラジオ体操・ケアビクスを実践している。予防に、イモ類・野菜の食事提供の工夫をしている。個別に乳酸飲料を取り入れている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 個々に、早く・遅くに入りたい希望は、取り入れている。また、一人、週3回の入浴であるが、夏場の暑い時は、毎日でも入浴体制をとっている。入浴後のさっぱり感を楽しんでいただいている。 | 週3回の入浴を提供し、その他にシャワー浴や希望時にも対応し入浴が行われている。職員が浴室と脱衣場2人で介助し、同性介護を希望された場合も対応し、個々に応じた支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中、運動・食事の準備・後片付け・掃除等・レク活動して頂き、夜はゆっくりと過ごせるようにしている。疼痛のある方は、足浴対応ができている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 本人の病状、薬の内容等は、把握できている。服薬は、可能な限り二人確認でおこなわれている。薬に変更があった場合、症状も含めて全員に申し送りされている。常に確認できる状態である。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりに合った役割を持って頂き、ハリのある生活を送れるように努力している。嗜好品においても、個別に合わせた対応をしている。日々の生活の中で、畑へ出かけ、スイカ・野菜等の収穫ができる支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い時は、十三湖やショッピングセンター等へ出かけている。また、気分転換に外食もするようにしている。本人希望時、自由に外出できる様に体制は整えている。家族・地域の協力を得ての外出は、現在の課題である。 | 利用者の意向を聞き取り、年間行事でも外出計画があるが、個別に対応し外出できる体制が取られており、頻繁に外出を楽しまれている。利用者も自分で購入した物という満足感が得られている。自宅帰省できる利用者もいるが、遠方の方や家族構成等で難しい方には、家族や地域の協力を前向きに検討している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 外出の際、お買いものへ行くときは、自分の財布が無ければ不安になるため、財布を見せて、安心してお買いものができ、楽しめるよう環境を整えている。居室に、自分でお金を持っていたい方は、家族了解のもと本人に任せている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族の了解を得ている方は、自由に電話をかけたい時、できる対応をとっている。手紙のやりとりは、できる環境である。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節が感じることができるよう、四季折々に合わせ、レイアウトをおこなっている。また、暦の行事を生活に取り入れている。夜は夜の照明に切り替えている。 | ホールにある大きな窓からは、地元しじみ漁の船が並んで行く様子が見られることで、利用者も昔からの光景を目の当たりにしている。環境整備の係が主体となり、四季の行事の手作りの装飾品が飾られ、季節が感じられる。高い天井に木の梁があり、ぬくもりのある空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 独りでいたい時は、自分の椅子に座り、TVをみたり、歌を聞ける環境である。気の合う利用者様同士でおしゃべりする時は、十三湖を眺めながら、ソファに座りおしゃべりができる環境を整えている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 以前から、使い慣れた馴染みの物は、居室に置かれ、現在も以前同様の生活をしている。パジャマ・タオルケット・毛布類も同様である。 | 入居前に利用者、家族に使い慣れた物の持参について相談し、位牌や手鏡、化粧道具など、以前から使用していた物をそのまま使用している。また、心地よく過ごせるように、物の配置は個人の好みに任せた部屋作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室・トイレ等は、プレートを用いて、どこからでも分かるようにしている。また、館内は、手すりが付いており、自由に移動できている。新聞も自由に読むことができる。 | | |